

平成16年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

I 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 通常総会（平成16年5月26日 ラッセホール）

① 受賞者表彰（瀬戸内海環境保全月間ポスター公募最優秀賞等）

最優秀賞（環境大臣賞）

福島 安義（ふくしま やすよし） 長崎県 グラフィックデザイナー

優秀賞（瀬戸内海環境保全協会会長賞）

子供部門 脇田 晃成（わきた あきなり） 大阪府 柏原市立旭ヶ丘小学校2年生

一般部門 土屋 くみ子（つちや くみこ） 岡山県 県立高梁工業高等学校3年生

② 総会議事

- ・平成15年度事業報告及び収支決算
- ・平成16年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員候補の補欠選任

③ 特別講演会

講演：瀬戸内海研究の過去と未来

講師：香川大学名誉教授 岡市 友利（瀬戸内海研究会議顧問）

(2) 理事会

① 第75回理事会（平成16年5月18日 ラッセホール）

- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

② 第76回理事会（平成17年2月3日 ラッセホール）

- ・会費に関する件
- ・平成16年度事業実施状況等

③ 第77回理事会（平成17年3月23日 ラッセホール）

- ・平成16年度収支予算の補正
- ・平成16年度事業実施状況
- ・平成17年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

ア 第71回企画委員会（平成16年7月13日 国際健康開発センター）

- ・協会の会費のあり方について

- ・平成16年度事業計画の進め方について
- イ 第72回企画委員会（平成16年9月3日 国際健康開発センター）
 - ・協会の会費のあり方について
- ウ 第73回企画委員会（平成16年12月21日 国際健康開発センター）
 - ・協会の会費のあり方について
- エ 第74回企画委員会（平成17年2月23日 国際健康開発センター）
 - ・協会の会費について
 - ・平成16年度事業実施状況について
 - ・平成17年度事業計画（案）について

②調査委員会（平成17年1月28日 にぎたつ会館）

- ・平成16年度瀬戸内海環境情報基本調査結果について
- ・平成17年度瀬戸内海環境情報基本調査計画（案）について
- ・サンプルバンク試料を活用した新規調査（予備調査）について

③編集委員会

- ア 第1回編集委員会（平成16年7月27日 兵庫県民会館）
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」第39号及び第40号の原稿収集について
- イ 第2回編集委員会（平成17年1月26日 兵庫県民会館）
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」第41号及び第42号の原稿収集について

④賛助会員事業部会（平成17年1月25日 兵庫県民会館）

- ・平成16年度事業の検討について
- 事業部会：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)、総合科学
東芝セミコンダクター社大分工場、東和科学(株)、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4)参事・事務局長並びに担当課長会議（平成17年3月11日 兵庫県民会館）

- ・平成16年度事業実施状況について
- ・平成17年度事業計画（案）について
- ・会員からの情報提供

2. 専門委員の委嘱

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1)企画委員（11名）

大槻 芳伸	大阪府環境農林水産部循環型社会推進室環境管理課長
英保 次郎	兵庫県健康生活部環境局水質課長
稲田 英明	広島県環境生活部環境創造総室環境調整室長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
木下 通夫	大分県生活環境部環境保全課長
木股 昌行	神戸市環境局主幹（水環境保全担当）
宮武 敬三	高松市環境部環境保全課長

後藤 浩	山口県漁業協同組合連合会専務理事
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
岡崎 進	(社)大阪エフボランタリーネットワーク事務局長
木原 敏博	(財)広島県環境保健協会常務理事

(2)調査委員（11名）

松尾 明	大阪府環境情報センター所長
吉村 幸男	兵庫県立健康環境科学研究所センター所長
辻 力	和歌山県環境衛生研究センター所長
小倉 肇	岡山県環境保健センター所長
高田三千人	広島県保健環境センター所長
宮村 恵宣	山口県環境保健研究センター所長
三木 教碩	徳島県保健環境センター所長
藤田 淳二	香川県環境保健研究センター所長
井上 博雄	愛媛県立衛生環境研究所所長
吉村 健清	福岡県保健環境研究所所長
吉武 史朗	大分県衛生環境研究センター所長

(3)編集委員（16名）

秋山 和裕	環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室室長補佐
井上 祐一	関西電力株式会社環境室環境技術グループマネージャー
岩田 健治	東和科学（株）取締役事業経営本部副本部長
英保 次郎	兵庫県健康生活部環境局水質課長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
岡本 亮	(財)広島県環境保健協会生活センター吉島分室長
北村 弘行	元(社)瀬戸内海環境保全協会参与
谷本 高敏	兵庫県立健康環境科学研究所センター水質環境部長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
久野 武	関西学院大学総合政策学部教授
藤井 正美	(財)日本食品化学研究振興財団理事
眞鍋 武彦	(財)ひょうご豊かな海づくり協会但馬栽培漁業センター所長
宮川 裕	(株)神戸製鋼所環境エネルギー部長
山村 尊房	(財)地球環境戦略研究機関APNセンター長
湯浅 一郎	(独)産業技術総合研究所中国センター主任研究官
鷺尾 圭司	京都精華大学人文学部教授

3. 事務局職員等（17.3.31 現在）

常務理事	中嶋 國勝（兵庫県からの出向）
------	-----------------

顧問	櫻井 正昭（（財）自然公園財団専務理事）
事務局長兼業務課長	山崎 卓三（兵庫県からの出向）
参事兼総務課長	高木 敏一
主査	中井 純子
主査	西上 浩己（㈱総合科学からの出向 ～平成16年5月31日）
主査	清水 孝則（国土環境㈱からの出向 平成16年6月1日～）
主任	守安 雅代

II 事業

1. 普及活動及び活動支援事業

(1) 平成16年度(第32回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開（16.6.1～6.30）

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対して、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを作成、これを掲示するとともに、パンフレットの配布などを行った。

- ・平成16年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募最優秀作品
長崎市のグラフィックデザイナー 福島 安義氏の作品

(2) 平成17年度(第33回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募（期間：16年7月7日～11月30日）

17年度瀬戸内海環境保全月間に向けて、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携してポスターの原画を募集した。

ポスター選定委員会の開催（平成17年2月22日）

応募数 子供部門： 42

一般部門：154 総数：196

(3) 瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

① 瀬戸内海環境保全セミナーの実施

環境保全活動を推進するため、環境保全意識の高揚及び人材育成、情報発信等を目的として瀬戸内海環境保全セミナーを開催した。

ア 九州ブロック（平成16年10月15日 NHK大分放送局スタジオホール「キャンバス」）

テーマ：瀬戸内海の環境を考える

講演：浮遊・漂着ごみの現状と課題—海のごみゼロ—

講師 鹿児島大学水産学部助教授 藤枝 繁

パネルディスカッション：西端・豊の国から瀬戸内海を考える

コーディネーター 大分大学教育福祉科学部教授 川野田實夫

パネリスト 大分県生活環境部環境保全課長 木下 通夫

水辺に遊ぶ会代表 足利由紀子

住吉川浄化対策推進協議会会長 荒金 一義

(社) 別府湾をきれいにする会常務理事 野上 文史
(株) マリーンパレス常務取締役館長 川原 大
鹿兒島大学水産学部助教授 藤枝 繁

参加人数：115名

イ 四国ブロック（平成17年2月1日 ウェルシティ高松）

テーマ：瀬戸内海の環境を考える

講演：浮遊・漂着ごみの現状と課題

講師 鹿兒島大学水産学部助教授 藤枝 繁

パネルディスカッション：瀬戸内島嶼部の環境再生を考える

コーディネーター 香川大学名誉教授（さぬき瀬戸塾塾長） 岡市 友利

パネリスト 香川県環境森林部環境管理課課長補佐 森 敏樹

香川大学工学部安全システム建設工学科教授 増田 拓朗

うい・らぶ・なおしま副会長 堀口 容子

香川県地域振興アドバイザー（さぬき瀬戸塾アドバイザー） 竹内 守善

参加人数：160名

②瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

日時：平成16年9月15日～17日

場所：国民宿舎良寛荘（岡山県）

講師：香川大学名誉教授 岡市 友利

広島大学名誉教授 松田 治

奈良県立大学教授 西田 正憲

児島湖流域エコエブ会長（岡山大学環境理工学部教授） 沖 陽子

岡山大学資源生物科学研究所教授 青山 勲

環境省閉鎖性海域対策室室長補佐 秋山 和裕

環境省山陽四国地区自然保護事務所自然保護官 岩浅 有記

参加人数：24名

(4)平成16年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／（社）兵庫県保健衛生組織連合会／（社）瀬戸内海環境保全協会

日時：平成16年10月6日～7日

場所：兵庫県民会館

体験交流：各府縣市連合会の実践活動報告

全体フォーラム

基調講話：兵庫県知事 井戸 敏三

パネルディスカッション：生きてきた瀬戸内海－瀬戸内法30年－

コーディネーター	瀬戸内海環境保全地区組織会議事務局長	薦田 直紀
パネリスト	関西学院大学総合政策学部教授	久野 武
	瀬戸内海環境保全知事・市長会議事務局	英保 次郎
	環瀬戸内海会議幹事	服部 豊

情報提供：閉鎖性海域の環境保全に関する取り組み

(財) 国際エメックスセンター専務理事 中嶋 國勝

参加人数：延べ136名

(5) 賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成16年度瀬戸内海環境保全月間行事（平成16年6月1日～30日）への積極的参加

- ・月間ポスター等の提示による普及啓発活動の実施
- ・月間中の環境行事の実施及び取りまとめ

②平成17年度瀬戸内海環境保全月間ポスター公募への協力

③総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

④賛助会員研修会の開催

テーマ：閉鎖性水域における水環境改善技術の動向

日時：平成17年3月2日

場所：琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター・琵琶湖博物館の見学等

参加人数：24名

⑤瀬戸内海環境保全研修会の開催

テーマ：第6次水質総量規制

近年のCSR（企業の社会的責任）を巡る状況と今後の課題

日時：平成17年3月11日

場所：兵庫県農業共済会館

講師：環境省水環境部閉鎖性海域対策室室長補佐 秋山 和裕

(社) 関西経済連合会 企画グループ次長 小林 義彦

参加人数：220名

(6) 瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよう平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクトを引き続き展開するとともに、公募したスナメリのマスコットイラスト及び愛称「ほのぼのん」を広く活用し、瀬戸内海の環境保全活動を行った。

(7) 瀬戸内海沿岸域における浜辺の観察教室による実践環境教育（日本財団助成事業）（平成14～16年度）

瀬戸内海における代表的な湾・灘において、子どもたちが浜辺に出かけ、直接様々な生き物に触れ、どのような環境にどのような生き物が生息しているのかを考える機会を作り、瀬戸内海における環境保全の大切さを学ぶ実践的な環境学習（環境教育）の場として浜辺の観察教室を開催した。

また、せとうちネットを活用し、環境教育の大切さを広くPRした。

今年度が日本財団助成事業の最終年度であるため、3年間の成果をもとに、環境学習の教材として活用できる環境教育用テキスト「瀬戸内海—里海学入門—」を作成した。

①響灘（対象：二枚貝による海水浄化、生物観察）

開催日：平成16年8月6日 参加人数：75名

協力：北九州市、（財）北九州市環境整備協会、瀬戸内海研究会議等

②備後灘（対象：磯の生き物、プランクトン、底生生物）

開催日：平成16年8月24日 参加人数：73名

協力：福山市、（財）広島県環境保健協会、福山大学、瀬戸内海研究会議等

③環境教育テキスト委員会の開催（委員長：柳 哲雄瀬戸内海研究会議副会長・九州大学応用力学研究所教授）

開催日：第1回 平成16年5月29日

第2回 平成16年11月24日

(8)漂着ごみ淡路島会議の開催

淡路島での漂着ごみ調査に関わった団体等により、漂着ごみ淡路島会議実行委員会を結成し、漂着ごみが有する問題の深さ、広がりを変えて認識し、今後の取り組み方向を考えるため、参加者を交え様々な角度からディスカッションを行った。

日時：平成16年10月3日

場所：兵庫県南淡町 国立淡路青年の家

淡路島里海保全隊認定式

基調報告：地球環境問題として漂着ごみを考える—我々の暮らしと漂着ごみ—

講師 鹿児島大学水産学部助教授 藤枝 繁

紹介：国際海岸クリーンアップについて

J E A N / クリーンアップ全国事務局代表 小島 あずさ

パネルディスカッション：地域における実践事例報告から今後の取り組みとその視点・方向を考える

コーディネーター 広島大学名誉教授（瀬戸内海研究会議会長） 松田 治

コメンテーター 鹿児島大学水産学部助教授 藤枝 繁

報告者及びパネリスト クリーンアップ関西事務局

（財）水島地域環境再生財団

（財）琵琶湖・淀川水質保全機構

国立公園成ヶ島を美しくする会

瀬戸内海研究会議

参加人数：100名

(9)環境保全活動テキストの発行

沿岸域の環境保全活動に資するため、瀬戸内海研究会議が環境事業団地球環境基金（現：（独）環境再生保全機構地球環境基金）の助成を受けて編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたち—森〜川〜海からひと・くらし・いきものを考えよう」を協会で印刷、発行した。

(10) 瀬戸内海環境保全パネルの貸し出し

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため「瀬戸内海の環境保全パネル」をイベント等に展示・活用する目的で貸し出しを行った。

(11) 各種環境保全事業への協力

大阪湾クリーン作戦へ協力した。

(12) 環境NGO/NPOとの連携・支援

瀬戸内海における自然環境等の保全に努める環境NGO/NPOとの連携・支援を行った。

2. 指導・助成

各種環境保全活動事業に対する助成

漁業団体、環境衛生団体が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。

3. 情報収集・発信事業

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理・運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報、データの追加・更新を行った。

① 16年度の追加項目

- ・ サイトマップ機能
- ・ 瀬戸内海の島探索（地図からの検索機能）
- ・ 海の再生に関する情報

② せとうちネット管理運営委員会（委員長：柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授）

開催日：第1回 平成16年11月24日

第2回 平成17年2月28日

(2) 総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発行配布した。

- ・ 発行回数：年4回
- ・ 平成16年 6月 第38号
- ・ 平成16年 9月 第39号
- ・ 平成16年12月 第40号
- ・ 平成17年 3月 第41号

(3) 資料集「瀬戸内海の環境保全－平成16年度版－」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全－平成16年度版－」を発行配布した。

(4) 協会ホームページの充実

当協会の活動紹介及び環境情報等の発信に努めた。

4. 調査・研究事業

(1) 瀬戸内海環境情報基本調査(継) (環境省より受託 平成13年度～)

瀬戸内海の環境の状態を継続的に把握し、環境保全に係る諸施策の効果を検証することにより今後一層実効的な施策の検討、推進に資するため、これまで概ね10年を周期として実施してきた基本調査(底質・底生生物等現地調査及び解析調査・文献調査)を実施した。

委員会：検討委員会(委員長：塩沢孝之前広島県産業科学技術研究所副所長)

開催日：第1回 平成16年7月23日

第2回 平成17年2月17日

調査項目：底質・底生生物等現地調査(安芸灘・周防灘)

解析調査・文献調査(大阪湾・広島湾・伊予灘・響灘)

(2) 瀬戸内海水域の地域特性を踏まえた有機汚濁機構の解明に関する研究(環境省より受託 平成14～16年度)

瀬戸内海の各水域において、河川からの流入負荷のみならず、外洋水の流入にも着目した有機汚濁機構の解明を行い、水域特性に応じた負荷削減効果の検討や閉鎖性海域の環境保全対策の充実に資することを目的としている。

平成16年度は、瀬戸内海の各湾・灘別の水域特性(水質の経年変化、陸域負荷と湾外負荷の比率、湾内での陸水と海水の混合の度合等)を把握したうえで、各湾・灘別に陸域からの負荷削減効果等について検討を行った。

委員会：検討委員会(委員長：柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授)

開催日：第1回 平成16年8月11日

第2回 平成16年11月18日

第3回 平成17年2月18日

(3) 海岸漂着ごみクリーンアップ作戦受託事業(継) (兵庫県より受託 平成15年度～)

海に囲まれた淡路地域においては、海岸の環境保全、美観維持を推進する上で海岸漂着ごみ処理対策が地域の重要な課題となっている。

兵庫県では、美しさ溢れる環境立島「公園島淡路」の実現を目指すため、住民の参画と協働のもとにボランティアを中心とした「淡路島里海保全隊」を組織し、海岸漂着ごみの回収活動や調査の実施、海岸漂着ごみの防止対策の展開を図るなど、「海岸漂着ごみクリーンアップ作戦」事業を進めている。

本事業のうち、リセットクリーンアップ事業(住民の参加、協力のもと海岸に漂着している人工ごみ等を一度リセット、回収ごみの調査)、海岸漂着ごみモニタリング調査(リセットした海岸において、一定期間にわたって漂着ごみの組成等の調査)を行った。

調査場所：洲本市安乎海岸、西淡町慶野松原海岸、南淡町阿万吹上の浜海岸の3海岸
また、漂着ごみが有する問題の認識を深めるため、漂着ごみ淡路島会議（前掲）を開催した。

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援し、協力した。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

瀬戸内海研究会議の事務局として、円滑な事務運営と会員との連絡調整を行うとともに、事業を適切、効率的に遂行した。

(2) 「瀬戸内海研究フォーラムin京都」及びワークショップの開催等に対する支援・協力を行った。

① 瀬戸内海研究フォーラムin京都

テーマ：水環境保全と文化

開催日：平成16年9月7日～8日

場 所：京都市国際交流会館

② 瀬戸内海研究会議ワークショップ

テーマ：瀬戸内海におけるリン・窒素の挙動－太平洋起源の影響－

開催日：平成16年11月29日

場 所：兵庫県民会館

6. 国際的な活動への参加と協力

(財) 国際エメックスセンターが行う国際的な活動に対し、参加、協力を行った。

7. その他関連事業

(1) 国に対する要望

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮等について国に要望した。

① 瀬戸内海の環境保全に関する要望

- 要望事項：1. 瀬戸内海環境保全のための普及活動、環境教育事業及び参加型環境保全活動事業の推進
2. 瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
3. 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造並びに自然再生の推進に関する調査研究
4. 瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と富栄養化防止に関する調査研究
5. 瀬戸内海の自然環境及び水環境保全に関する調査研究
6. 瀬戸内海の化学物質等による環境影響に関する調査研究
7. 各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究
8. 瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動の拡充強化

要望日：平成16年7月20日

要望先：環境省、財務省、国土交通省、水産庁

②瀬戸内海の環境保全に関する特別要望

要望事項：瀬戸内海の生物多様性を回復し水産資源等の豊かな海として再生するための法整備

要望日：平成16年8月3日

要望先：環境省、内閣府、内閣法制局、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、
国土交通省、水産庁

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、協調して事業実施に当たった。

(3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。